

## 第5学年 音楽科学習指導案

対 象 第5学年2組 28名  
 会 場 音 楽 室  
 授業者 宮 田 優 介

### 1 題 材 名 いろいろな音色を感じ取ろう

「リボンのおどり（ラ・バンバ）」「祝典序曲」「打楽器でリズムアンサンブル」  
 （教育芸術社 小学生の音楽5）

### 2 題材の目標

- (1) 音色、リズム、旋律や音の重なりなどと曲想との関わりを理解して、各声部の楽器の音色や楽器の音の重なり合う響きに気を付けて音を合わせて演奏する技能や、打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 楽器の音の組み合わせ方や重ね方を工夫した演奏の仕方や、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて、どのようにまとまりのある音楽をつくるか思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見出しながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 友達と協働して音を合わせた表現をしたり、様々な楽器の響きに気を付けてオーケストラの音楽を聴いたりする学習の楽しさを味わって、主体的に取り組む。

### 3 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>①曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりを理解し、ト音譜表やヘ音譜表の楽譜を見て演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>②楽器の音色や各声部の重なりによる響きと演奏の仕方との関わりを理解し、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。</p> <p>③主な旋律を演奏する楽器の音色と旋律を手がかりに楽曲の構成を捉え、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを理解している。</p> <p>④打楽器の音の響きやそれらの組み合わせが生み出すよさや面白</p>	<p>①楽器の音色、各声部の重なりや響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>②オーケストラの様々な楽器の音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見出し、曲全体を味わって聴いている。</p>	<p>①楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心を持ち、パートの重ね方を工夫しようとしている。</p> <p>②楽器の音色や響きの変化、次々と交代しながら演奏する旋律に耳をかたむけ、オーケストラの音楽の魅力を見出しながら音楽を聴こうとしている。</p> <p>③打楽器の音色の組み合わせやリズムの重ね方に興味・関心を持ち、反復や呼びかけとこたえ、変化を生かしてリズムアンサンブルをつくろうとしている。</p>

<p>さを理解し、即興的に音色やリズムを選んだり組み合わせたりして表現する技能を身に付けてつづけている。</p> <p>⑤リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解し、反復、呼びかけとこたえ、変化などを用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。</p>	<p>③打楽器の音色やリズム、おとの重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	
---	--	--

#### 4 題材設定の理由

##### (1) 題材観

- 「リボンのおどり (ラ・バンバ)」は、教科書では最後の2小節まで4小節の旋律やリズムが反復されるように編曲されている。そのため、楽譜を見て演奏したり、音を合わせて演奏したり、重ね方を工夫したりしやすい。打楽器を含めた7つのパートに編曲されているため、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解しやすいというよさもある。
- 「祝典序曲」はショスタコーヴィチが作曲した作品で吹奏楽編曲版もある。1954年にロシア革命記念演奏会の時に改作、演奏され、1980年のモスクワオリンピックや2009年のノーベル賞授与のコンサートなどでも演奏されている。冒頭はトランペットによるファンファーレ。その後クラリネットによる軽快な第一主題が現れる。弦楽器も加わり華やかになり、第二主題はホルンとチェロによって叙情的な旋律が演奏されている。主旋律を金管楽器、木管楽器、弦楽器と交代しながら演奏されることで、オーケストラの楽器群の魅力に着目し、それぞれの楽器の特徴をとらえやすい。「祝典序曲」は、「金管楽器」「木管楽器」「弦楽器」のそれぞれの楽器が活躍する部分が分かりやすく、オーケストラの楽器の音色を聴き取りやすい曲である。曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解しやすい教材である。

本時

- 「打楽器でリズムアンサンブル」は、いろいろな打楽器やいろいろなリズムが選択できるようになっている。そのため、楽器の演奏が苦手な児童やリズムに合わせて演奏することが苦手な児童も音楽づくりに取り組みやすい。また、いろいろな楽器の音色やひびき、重なり方のよさを感じることができる教材である。

- 題材3「いろいろな音色を感じ取ろう」では、題材2「音の重なりを感じ取ろう」の学習経験を踏まえながら、いろいろな音の響きやそれらが組み合わさったことによる楽器の音が重なり合う響きのよさや面白さについて感じ取ったり、それらを生かして表現を工夫したりする活動を進めていく。

活動の内容としては、木、金属、皮など、材質の異なる楽器の音が重なり合う響きの面白さや豊かさを感じ取れるようにし、それらの組み合わせを工夫することによる響きの変化を楽しむながら演奏したり、音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくったりすることができるようにする。また、2年生の鑑賞曲「だがつきパーティ」、3年生の金管楽器の比較鑑賞、4年生の木管楽器の比較鑑賞、題材2の弦楽合奏の鑑賞をまとめるかたちで、音色の異なる様々な楽器が一体となって豊かな響きを生み出すオーケストラの曲を鑑賞する学習も取り上げる。曲や演奏についてよかった点を伝え合う活動を取り入れるなどして、曲全体を味わって聴く喜びを感じ取れるようにしていく。

関連する学習指導要領における領域別目標

A 表現	<p>(2) 器楽ア 曲の特徴にふさわしい器楽表現を工夫し、思いや意図をもつこと。</p> <p>イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ(ア) 聴奏・視奏の技能</p> <p>(イ) 音色や響きに気を付けて、楽器を演奏する技能</p> <p>(ウ) 音を合わせて演奏する技能</p> <p>(3) 音楽づくりイ(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。</p> <p>(イ) 音を音楽へと構成することを通して、全体のまとまりを意識した音楽をつくることについて工夫し、思いや意図をもつこと。</p> <p>イ(ア) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</p> <p>(イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴</p> <p>ウ(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に表現する技能</p> <p>(イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能</p>
B 鑑賞	<p>ア 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。</p>
〔共通事項〕	<p>・本題材で主に扱う音楽を形づくっている要素</p> <p>ア 音色、リズム、旋律、音の重なり</p> <p>イ 反復、呼びかけとこたえ、変化</p> <p>・音符、休符、記号や用語</p> <p>アクセント、へ音記号</p>

(2) 児童観

4年生では「パパゲーノとパパゲーナの二重唱」や「もみじ」で声と声の重なりによさや面白さを感じ取り、5年生の1学期では題材「音の重なりを感じ取ろう」にて重なり合う音の響きを感じ取りながら歌唱や演奏をした。5年生ではよさや面白さを感じ取るだけでなく、実際に互いの音を聴きながら、実際に演奏するといった学習内容となっている。1学期の終わり頃には互いの音を聴き合ったり、音が重なり合う響きを意識したりしながら歌唱や演奏ができており、「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」の学習時には音の重なり方やよさや面白さを感じ取りながら鑑賞をしていた児童が多かった。

歌唱活動や器楽演奏、音楽鑑賞等、音楽活動に前向きに取り組む児童や、音楽本来の楽しんで聴く、よさや面白さを感じ取ることができる児童が多い。

しかしその反面、音楽的な見方、考え方を持って学習に生かしたり、よさや面白さ、思いや考えを伝えたり、表現することが苦手な児童が多い。

本題材では色々な音が重なることの魅力について、これまでの既習事項を生かしながら器楽合奏や音楽鑑賞、音楽づくりをする。今までの既習事項を用いることで、自分の考えを持ちやすく、さらに既習事項の内容を用いて伝え合ったり、表現しやすくなる。また表現を工夫しようと意欲が高まることが期待できる。グループやペアで分かれて合奏の表現を話し合うなどを多く取り入れて、どの児童も積極的に参加できるようにする。

### (3) 教材観

○「打楽器でリズムアンサンブル」では、「楽器の特性を生かす」、「音楽の仕組みを生かしてつくる」の2つの視点で授業を進めていく。

#### 楽器の特性を生かす

木でできている楽器、金属でできている楽器、皮が張ってある楽器など、素材の異なる楽器を扱うことで、長い音や短い音、音の高さなどの違いに気づき、様々な音の出し方について考えることができる教材である。例えば、響きが持続する楽器は長く伸ばす音で構成されているリズムを選ぶなど、音色の特性とリズムの特徴との関わりについて考えることができる。ほかに、打楽器は演奏の仕方によって響きや音色を変えることができる。例えば、トライアングルはミュート（持ち手で響きを抑える）をかけた音とかけない音では、響きの長さが大きく異なる。同じ楽器でも、1つの楽器からいろいろな音を出す学習を想起しながら、演奏の仕方を工夫して、様々な音色をつくるようにしたい。

#### 音楽の仕組みを生かしてつくる

リズムの特徴を考え、いろいろな重ね方を工夫して音楽をつくる学習である。「反復」「呼びかけとこたえ」「変化」を生かして全体の構成を工夫することができる。ここでは、音楽のまとまりとして全体を見通しながらつくっていくことが大切である。さらに強弱や速度なども工夫できると、より豊かな表現になる。

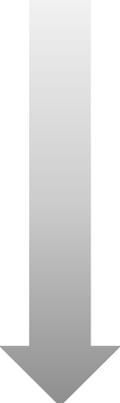
5 題材の指導計画と評価計画（全8時間）

題材3  
いろいろな音色を感じ取ろう

時	目標（●）と主な活動（○）	評価			
		知技	思判表	態度	評価規準[方法]
1	<p>●各パートの旋律の特徴をつかんで演奏する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>いろいろな楽器の音が重なり合うひびきを楽しみながら演奏しましょう。 「リボンのおどり（ラ・バンバ）」</p> </div> <p>○指導用CDを聴き、曲全体の感じをつかむ。 ○リコーダー1, 2のパートを歌詞や階名で歌う。 ○二つのパートに分かれてリコーダーを演奏する。 ○アクセントを知る。 ○木琴、鉄琴のパートを階名唱し、特徴をつかんで演奏する。 ○打楽器のパートを手拍子で打ってリズムを覚え、演奏する。 ○へ音譜表の読み方やへ音記号について知る。 ○低音のパートを階名唱し、演奏する。</p>	①			<p>曲想と音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりなどとの関わりを理解し、ト音譜表やへ音譜表の楽譜を見て演奏する技能を身に付けている。 【演奏聴取】</p>
2	<p>●重なり合う響きの変化の面白さを生かして、演奏を工夫をする。</p> <p>○グループで演奏する楽器を決めて練習する。 ○グループで一度合奏し、全体の響きを感じ取る。 ○グループごとにいろいろな重ね方を試す。 ○曲全体のまとまりを考えながら、グループで演奏の仕方を工夫する。</p>		①	①	<p>楽器の音色、各声部の重なりや響きなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、パートの重ね方や楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 【ワークシート、発言内容】 楽器の音色やいろいろな音が重なり合う響きに興味・関心を持ち、パートの重ね方を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。 【発言内容、演奏聴取】</p>
3	<p>●グループで工夫した「リボンのおどり」を発表をする。</p> <p>○工夫したことを振り返り、音量のバランスに気を付けて、拍にのってグループで演奏する。</p>	②			<p>楽器の音色や各声部の重なりによる響きと演奏</p>

	○グループごとに発表して互いに聴き合い、よいところを伝える。			の仕方との関わりを理解し、各声部の音や全体の響きを聴いて、音を合わせて演奏する技能を身に付けて演奏している。 【発言内容、演奏聴取】
4	<p>●曲想及びその変化と、形づくっている要素との関わりに気付く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>楽器の重なり方が変わると曲の感じは どう変わるか 「祝典序曲」</p> </div> <p>○楽器の響きや旋律の変化を手がかりに曲想を感じとる。 ○主な旋律を演奏する楽器の音色や旋律を手がかりに楽曲の構成をとらえる。</p>	③		<p>主な旋律を演奏する楽器の音色と旋律を手がかりに楽曲の構成を捉え、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを理解している。 【発言内容行動観察、ワークシート】</p>
5	<p>●「祝典序曲」のよさと、オーケストラの音楽の魅力を見出す。 ○楽器による響きの変化を味わいながら、曲全体を通して聴き、その面白さを紹介文に書くなどして伝え合う。 ○「アフリカンシンフォニー」を聴き、楽器による音色の響きを聴き比べる。</p>		②	<p>オーケストラの様々な楽器の音色、旋律、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見出し、曲全体を味わって聴いている。 【ワークシート、発言内容】</p>
6	<p>●いろいろな楽器の響きや音色の組み合わせを楽しむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして、 リズムアンサンブルをつくりましょう。 「打楽器でリズムアンサンブル」</p> </div> <p>○楽器の材質や音の響きに気を付けながら、いろいろな</p>	④		<p>打楽器の音の響きやそれらの組み合わせが生み出すよさや面白さを理解し、即興的に音色やリズムを選んだり、組み合わせたりして表現する技能</p>

	<p>楽器を即興的に選んで鳴らして音の特徴を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音の特徴に気を付けながら、グループごとにアンサンブルに使う楽器を選ぶ。</li> <li>○選んだ楽器を使って教科書 P.31 の①～③のリズムを重ねて演奏し、響きの組み合わせを確かめる。</li> <li>○選んだ楽器で教科書 P.32 のリズム 1～リズム 6 を演奏し、好きなリズムを一つ選ぶ。</li> <li>○選んだリズムを三人で重ねて演奏し、重なり合う響きやリズムの面白さを確かめる。</li> </ul>				<p>を身に付けてつくっている。</p> <p>【行動観察、演奏観察、発言内容】</p>
7 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>●反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係について知り、音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。</li> <li>○リズムアンサンブルのルールを知り、グループの響きを聴きながら楽器の特徴を生かして自分のリズムを決める。</li> <li>○いろいろな重ね方を試しながら、自分たちのリズムアンサンブルについてどのようにつくりたいか話し合う。</li> <li>○選んだ楽器とリズムを使い、音の重なりや響きを試しながら、音楽の仕組みを生かして、自分たちのリズムアンサンブルをつくる。</li> </ul>		③	③	<p>打楽器の音色やリズム、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>【ワークシート、演奏聴取】</p> <p>打楽器の音色の組み合わせやリズムの重ね方に興味・関心を持ち、反復と呼びかけとこたえ、変化を生かしてリズムアンサンブルをつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【行動観察、発言内容】</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分たちのリズムアンサンブルを完成させ、発表し合う。</li> <li>○終わり方を工夫する。</li> <li>○一つか二つのグループが発表をする。</li> <li>○友達の工夫したよい点を取り入れ、自分たちの作品をまとめる。</li> </ul>		⑤		<p>リズムのつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解し、反復、呼び</p>

- 
- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○すべてのグループが発表して聴き合う。</li><li>○気付いたことや感想などを発表し合う。</li></ul> | かけとこたえ、変化などを用いて、音楽をつくる技能を身に付けてリズムアンサンブルをつくっている。<br>【発言内容、演奏聴取】 |
|---|--|

## 7 研究主題との関連

本研究の「働かせる5つの力」及び「子どもに示す4つの力」は以下の通りである。

5つの力	4つの力
自己認知力	自分の考えをもつ力
自己決定力	
自己表明力	自分を表現する力
対話力	人を大切にする力
共創力	チャレンジする力

### この授業で児童が働かせる力……自己表明力

音楽を構成する音色、音の重なりやそれらが生み出すよさや面白さについて、思いや意図を持ち、演奏やグループ活動を通して相手に伝えようとしている。

### 学級経営分科会

#### (ア) 日々の振り返り

児童理解を深めるために、担任と連携し日々の学級での振り返りを専科の授業に生かしていく。例えば、振り返りの中で子どもを通した子どもの姿を拾っていきながら、指導にあたっていく。

### 学習分科会

#### (イ) 毎時の振り返り

題材を通して振り返りができるワークシートを作成し毎時何を学んだのか、学習感想を書き溜めて、導入部で児童の感想の内容を行う。また、授業の様子の画像・映像を記録していき、導入部で、適宜画像・映像の視聴を行い、前時までの授業の様子を振り返る。それらを通して、題材を通してのめあてや、これまでの自分より学習が深まっていることを再確認し、より興味・関心をもって授業に取り組むことができる。

#### (ウ) 課題探求（児童がやりたいと思う課題設定）

本時でより自己表明力を深めていくために、音楽の仕組みが日々自分たちが聴いている音楽でどのように生かされているか、その仕組みを用いることで自分がどのように感じ、どのように本時に生かしていくかをまず自己認知するために、身の回りの音楽を授業に活用していく。

#### (エ) 課題探求（対話を通して課題を深める時間）

実際に楽器を鳴らしながら話し合ったり表現を工夫していくように周知する。楽器を鳴らしながら話し合うことで話し合いだけでは出てこない新たなアイデアが思い浮かんだり、話し合いが苦手な児童も参加しやすくなる。

## 特別活動分科会

### (オ) 異学年交流のよさ

最後の各グループの発表を映像に残し、楽器の組み合わせの変化と曲想の関わり等この題材を通して学んだことを4年生に視聴してもらい、感想を共有してもらうようにする。異学年である4年生から反応をもらうことで、自分たちでは気付かなかった自分たちのよさや成果について認識できると考える。そのことが自分たちの自己認知力の助けにもつながるだろう。

### (カ) 児童発信の活動

自分たちで作った音楽を異学年に見てもらいたい気持ちを引き出すように声掛けをしていく。

## 8 本時（全8時間中の第7時）

### (1) 本時のねらい

反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係について知り、音楽の仕組みを生かしてリズムアンサンブルをつくる。

### (2) 学習活動過程

	◎児童の活動 ○指導上の留意点 ☆音楽科における評価	働かせる力	●本研究における指導の手だての具体 ★本研究における評価
導入 5分	◎前時までを振り返る。	自己認知力 ↓	(イ) 児童の振り返りや写真をもとに前時の活動の様子を想起することができるようにする。
展開 35分	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p><b>打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして、 リズムアンサンブルをつくりましょう。</b></p> </div> <p>◎音楽の仕組みに気を付けて、教科書 P.33 の「例」を演奏する。</p> <p>○反復や呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みが、どのように生かされているか、構成を理解しながら演奏するようにする。</p> <p>◎いろいろな重ね方を試しながら、自分たちのリズムアンサンブルについてどのようにつくりたいか話し合う。</p> <p>○ワークシートを活用し、構成を書きながら話し合うと、全体を把握しやすいことを伝える。</p> <p>◎選んだ楽器とリズムを使い、音の重なりや響きを試しながら、音楽の仕組みを生かして、自分たちのリズムアンサンブルをつくる。</p> <p>☆【思・判・表③】打楽器の音色やリズム、おとの重なり、反復、呼びかけとこたえ、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。 (ワークシート、演奏聴取)</p> <p>☆【態③】打楽器の音色の組み合わせやリズムの重ね方に興味・関心をもち、反復や呼びかけとこたえ、変化を生かしてリズムアンサンブルをつくらうとしている。 (行動観察、発言内容)</p>	<p>自己表明力 ↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>★自分の思いや 感じ取ったこと を、相手に伝えよ うとする。</p> </div> <p>共創力 ↓</p>	<p>(ウ) 身の回りの音楽を活用し、音楽の仕組みを理解し、どのように音楽づくりに生かしていくか自己認知を深めるようにする。</p> <p>(エ) 対話を深めるために、実際に楽器を鳴らしながら話し合ったり表現を工夫していくように周知する。</p>
まとめ 5分	◎本時の活動を振り返る。 ○振り返りカードにその時間で学んだことを記入していく。	自己認知力	(イ) 題材を通して自分の変容がわかるように、毎時振り返りを記入する。

(3) 板書計画 ※主な旋律を演奏している楽器を構成図の下に掲示していく。

めあて:打楽器の音色や音楽の仕組みを生かして、リズムアンサンブルをつくりましょう。

いろいろな楽器

木グループ

- ・ウッドブロック
- ・クラベス
- ・カスタネット

金ぞくグループ

- ・トライアングル
- ・すず
- ・シンバル

皮グループ

- ・タンブリン
- ・ボンゴ
- ・コンガ

音楽の仕組み



くり返す



よびかけて  
こたえる



楽器が  
ふえていく



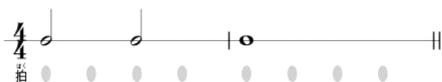
楽器が  
へっていく

〈参考資料〉

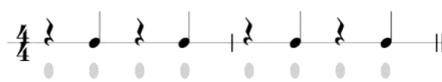
打楽器でリズムアンサンブル

5年 組 番 名前

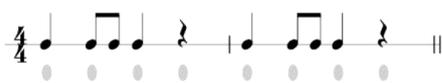
リズム1



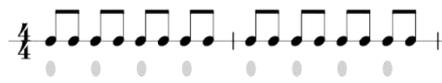
リズム2



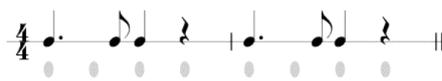
リズム3



リズム4



リズム5



リズム6



名前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	終わり方